

▼ダカルバジン注用 [注]

【重要度】★ 【一般製剤名】ダカルバジン (U) dacarbazine 【分類】抗悪性腫瘍剤 [アルキル化剤]

【単位】▼100mg/V

【常用量】■悪性黒色腫：「100～200mg/日を5日間連日静脈内投与し、以後約4週間休薬」を1コースとし繰り返し投与

■ホジキン病 (ホジキンリンパ腫)：「1日1回375mg/m²を静脈内投与し、13日間休薬を2回繰り返す」を1コースとし、繰り返し投与 [他の抗悪性腫瘍剤と併用]

■褐色細胞腫：「1日1回600mg/m²を2日間連日静脈内投与し、少なくとも19日間休薬」を1コースとし、繰り返し投与 [シクロホスファミド水和物とビンクリスチン硫酸塩との併用]

【用法】注射用水10mLを加えて溶解し、静注もしくは点滴静注■血管痛防止のため、点滴経路全般を遮光する

【透析患者への投与方法】副作用が強くあらわれるおそれがあるため慎重投与 (1)

【保存期CKD患者への投与方法】腎障害のある患者では腎障害の悪化のおそれ、また副作用が強くあらわれるおそれがあるため慎重投与 (1)

【その他の報告】消失が遅延するので減量が必要かも知れない (U)

【特徴】ホジキンリンパ腫、肉腫、悪性黒色腫、褐色細胞腫などの標準治療薬。生体内で活性化されてDNAをアルキル化する。

【主な副作用・毒性】アナフィラキシー、骨髄抑制、肝障害、蛋白尿、BUN上昇、消化器症状、ふらつき、脱毛、光線過敏症、発疹、血管痛、筋肉痛など

【安全性に関する情報】高血圧クレーゼ等の予防のため、 α 遮断薬等を投与 (1)

【モニターすべき項目】腎機能、骨髄機能、肝機能、尿酸値

【代謝】肝代謝を受け、CYP1A1、1A2がメインで、2E1も関与 (1) 主代謝物5-aminoimidazole-4-carboxamide [AIC] (Breithaupt H, et al: Cancer Chemother Pharmacol 9: 103-9, 1982) 肝で代謝される (U)

【排泄】尿中未変化体排泄率23%、代謝物AICとして尿中に15～28%回収 [iv, 24hrまで] (1) 尿中未変化体排泄率46～52%、AICとして9～18%回収 (Breithaupt H, et al: Cancer Chemother Pharmacol 9: 103-9, 1982) 尿中に40%回収され未変化体として20% [6hrまで] (U)

【CL】15.4mL/min/kg [iv] (1, Breithaupt H, et al: Cancer Chemother Pharmacol 9: 103-9, 1982) 代謝物AICの腎CL=2.6～5.3mL/min/kg (Breithaupt H, et al: Cancer Chemother Pharmacol 9: 103-9, 1982)

【t_{1/2}】 β 相41min (1) β 相5hr、肝障害もしくは腎障害時の β 相7.2hr (U) 平均5hr (11)

【蛋白結合率】20% (1) 低い (U) 5% (11)

【Vd】0.632L/kg [iv] (1, Breithaupt H, et al: Cancer Chemother Pharmacol 9: 103-9, 1982) わずかにBBBを通過 (U)

【MW】182.18

【透析性】透析性がある (1) 透析されやすい特徴を有している (5)

【O/W係数】LogP=-0.20 [1-オクタノール/buffer, pH 7.4] (1) [pKa] 4.4

【相互作用】骨髄抑制の相互増強に注意 (1)

【更新日】20171108

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。